

令和 8 年度（2026年度）新規研究課題

課題番号：R08-07

課題名：花き農家の所得向上を実現する県オリジナルユリの生産性の高い栽培技術の開発および新品種の育成

研究期間：令和 8 年～令和12年（2026年～2030年）

研究担当：農林業技術部 花き振興センター

1 研究の背景

県オリジナルユリについては、やまぐち農林水産業振興計画において、令和 8 年度の生産量100万本を目標にし、その実現に向けて取り組んでいる。しかし、オリジナルユリの産地では、生産者の高齢化による生産取り止め、既存生産者の生産規模や新たな生産者が増えないこと等の要因で、出荷数量は令和 6 年度に12万本程度と伸び悩んでいる。

今後、生産を拡大させていくためには、花農家にとって、所得向上を実現できる“生産性の高い栽培技術や新品種の開発”が必要である。

2 目的

花き農家の所得向上に向け、需要期出荷や秀品率・出荷率向上技術および生産性の高い新品種を育成する。

3 研究内容

- (1) 需要期出荷に向けた球根の休眠制御による長期保管技術の開発
掘り上げから冷蔵処理開始までの最適な球根保管技術の開発
冷蔵処理開始後の貯蔵期間延長技術の開発
- (2) 秀品率・出荷率向上技術の開発
ユリのウイルス濃度検定技術とウイルス症状軽減化技術の開発
葉焼け症状の発生要因の解明と葉焼け症状抑制技術の開発
- (3) 生産性が高いユリの育成
これまでに育成した系統ごとの特性を把握、有望系統を選定

4 研究のポイント

- (1) ユリ球根の休眠制御技術を開発することにより、需要期に高品質な切り花の出荷が可能となる。
- (2) ウィルス症状軽減化技術と葉焼け症状抑制技術を開発することにより、切り花の秀品率・出荷率が向上する。
- (3) 球根の貯蔵性が高い、病害抵抗性が高い等の特性を把握し、生産性が高いユリを選定することにより、ニーズに応じた品種育成が可能になる。

花き農家の所得向上を実現する県オリジナルユリの生産性の高い栽培技術の開発および新品種の育成

研究期間: 2026 ~ 2030 年度

研究担当: 農林業技術部花き振興センター

● 出荷率・秀品率向上技術の開発

◎ ウィルス検定技術・症状軽減技術の開発



ユリのウィルス
濃度検定技術の
開発



ウィルス症状の
軽減化技術の開発

ユリの
ウィルス症状

◎ 葉焼け症状の要因解明・抑制技術の開発



- ・どのような条件で発生するのか要因を解明
- ・葉焼け症状抑制技術を開発

ユリの葉焼け症状



● 球根の休眠制御による長期保管技術の開発



ユリが高く売れる需要期を
狙って品質の良い球根を出荷
できる技術を開発する



● 生産性が高いユリの育成



病気に強い等の特性を確認し、
生産性の高い品種の選定を進める

- ・球根の長期保管技術の開発による需要期出荷の実現
- ・ウィルス症状の軽減による増殖球根更新年の延長
- ・葉焼け症状の抑制による出荷率・秀品率の向上
- ・系統ごとの特性を把握し、生産性の高い品種を選定

▶ 花き農家の所得向上を実現

オリジナル花き生産の安定化と産地拡大